

## 国分高校，文部科学大臣表彰（全国最高賞）受賞の快挙！

～平成 30 年度 S S H 生徒研究発表会～

8 月 8 日（水）・9 日（木）に神戸市で行われた平成 30 年度 S S H 生徒研究発表会において，国分高校を代表して出場した生物研究班が，**全出場校 208 校の頂点となる文部科学大臣賞を獲得**しました。S S H 指定一年目にして最高賞を獲得することは，驚くべき快挙です。この大会は，全国の S S H 指定校及び S S H 経験校の生徒が一堂に会し，日頃の研究成果を発表し相互交流を深めると共に，専門の審査員の決定により優れた研究発表校に授賞するコンクールです。

国分高校は，「**幸屋火砕流から 7300 年立ち直れていない？～大隅諸島のエンマコガネと幸屋火砕流の関係**」という研究テーマで，6 名の生徒が参加し，その中で 3 年生の牧瀬桃香さんと永田梨奈さんが代表して発表を担当しました。

一日目のポスター発表は，学校ごとにブースを作り，それぞれのブースに関心を持ってやってきた人たちに，事前に準備したポスターを使って研究成果を説明するという形式です。国分高校のブースには，他校の生徒や一般の方，審査員の方々が途切れることなく訪れ，二人の生徒は，午前午後あわせて 5 時間半にも及び一生懸命に思いを伝えていました。一日目の終わりに，**全体発表校 6 校が選出**されましたが，非常にレベルの高い研究発表が多い中，国分高校は見事，そのひとつに選出されました。

二日目は，選出された 6 校による全体発表でした。前日の夜，宿泊のホテルでみっちり練習を積んで臨んだ二人の生徒は，会場である神戸国際展示場を埋め尽くす大人数の聴衆を前に少しも動じる風なく，堂々とした態度でプレゼンを行いました。研究の成果を，論理的で誰にでも分かりやすい言葉で，時にはユーモアも交えながら，制限時間いっぱいの 10 分間を使い切って伝えた，百点満点のプレゼンでした。国分高校の発表が終わったとき，会場のあちこちから感嘆の声が聞こえました。いよいよ表彰式を迎え，**文部科学大臣賞受賞校の受賞校として「鹿児島県立国分高等学校」の名が呼ばれた**とき，会場から割れんばかりの大喝采を浴びました。これが国分高校の快挙が成し遂げられた瞬間でした。

国分高校は，同時期に長野県で行われた全国高等学校総合文化祭の自然科学部門にも，**サイエンス部の 3 つの研究班（物理班・生物班・地学班）**が**出場を果たしており，自然科学分野の探究活動では，全国レベルの水準に**あります。これから S S H 活動が本格化し，全生徒が探究活動に携わることによって，社会科学を含むあらゆる分野で，研究成果のレベルが上がってくることを期待しています。



